令和７年度　評価項目の達成及び取組状況

中部幼稚園

分　　野	評価項目	評価の着眼点	自　己　評　価 達成及び取組状況 達成及び取組状況をふまえ、成果と課題等を明らかにし、自己評価する。 その際、必要に応じ、保護者アンケートの結果も含める。	評　価 評価基準により段階評価を行う。	学校関係者評価 評　価 評価基準により段階評価を行う。	評価結果を踏まえた今後の取り組み 自己評価及び学校関係者評価をふまえた改善策や次年度の目標を具体的に示す。
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	「心豊かでたくましい子供の育成」という教育目標について、全職員で共通理解を図り、皆が常にこの教育目標を意識しながら保育計画を立て、指導を行うよう努めた。そして、各種活動の後には丁寧に振り返りを行い、改善を図っていくことで、教育目標の実現に近づいていくよう心がけた。	4	4	今後も引き続き指導計画の見直しを行い、諸活動の実施後の振り返りを大切にして、その都度見直しを行うことで、学級経営がより充実していくよう着実に改善を重ねていきたい。そして、全職員で足並みを揃えて、教育目標の達成を目指していきたい。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	ブラジル国籍の園児が増えてきたため、今年度は外国籍対応の補助員を1名加配していただき2名体制となったので、外国籍の園児や保護者に対して、これまでよりもきめ細やかな指導・支援を行えるようになった。しかし、年度末に向けてさらに外国籍園児が増え、園全体の約半分を占めるようになったため、さらに改善を図っていく必要を感じている。	4	4	年々増加する外国籍の園児については、本園が抱える課題と要望を保育幼稚園課にお伝えし、ポルトガル語が話せる保育補助員のさらなる増員を市に求め、スタッフの充実を図りながら、言葉や文化の壁が少しでも低くなるよう全職員で協力していく。また、今後の外国籍園児の受け入れについては、保護者や地域の皆さんのご意見をいただきながら、市とよく話し合って決めていきたい。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	特別な支援が必要な園児について「個別の支援計画」を作成し、特別支援コーディネーターを中心に適時支援会議を開いて職員間の情報共有に努めた。また、保育幼稚園課による巡回訪問指導や、医療・福祉等の関係専門機関との連携を図ることで、専門的な立場から指導・助言をいただくことができ、有意義であった。	3	3	今後も特別支援コーディネーターを中心に早めの情報共有を心掛け、保育幼稚園課指導員による巡回訪問指導を活用したり、斐川行政センターの保健師や医師等の福祉・医療の関係専門機関との連携を図ったりしながら、その子にとって適切な支援になるようつなげていきたい。また、必要に応じて小学校の特別支援学級や幼児通級指導教室の見学や面談等を行って情報共有を図り、小学校の特別支援教育への橋渡しを丁寧に行っていきたい。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	挨拶や履物そろえなどの具体的なふるまいが相手を大切にすることにつながることを、始業式や終業式等の機会を捉えて繰り返し園児に伝え、人権意識の芽生えを促すことができたと感じている。また、防犯教室の折に、「プライベートゾーン」について絵本の読み聞かせを行い、相手だけでなく自分も大切にすることの重要性を伝えることができた。今年度から、プール遊びの着替え時に他の人から裸を見られないよう「ついたて」を用意したことも、改善できた点である。	3	3	挨拶や履物そろえなどのふるまいや、「早寝・早起き・朝ご飯」をはじめとした基本的な生活習慣の定着など、人権に関わる指導を継続して行っていきたい。また、国籍に関係なく、それぞれの個性や良さを認め合う機会や場を意識して設けることで、自己肯定感や自尊感情、他者を尊重する気持ちを高めていきたい。そして、教職員も人権に対するアンテナを高く張って、園児のお手本となる言動を心がけていきたい。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	笹巻づくりや焼き芋会、餅つき会や節分の豆まき、湖遊館でのながぐつスケートなど、季節の変化を感じ楽しむ行事や、地区民体育大会での全園児によるダンス発表や、久木地区文化祭での作品展示や年長児による歌の発表など、地域の特色を生かした多様な行事に参加することで、園児一人一人が心身共に大きく成長することができたと感じている。今年度は熊や猿の心配から、年長児の大黒山登山を湖遊館でのサバニ体験に変更し、園児が安全に行事に取り組めるよう配慮した。	4	4	「その行事を通して園児にどんな力をつけていくのか」というねらいを明確にして、心も体も柔軟な幼児期に多様な行事を経験させることで、豊かな感性と健やかな体を育んでいきたい。また、マンネリに陥ることなく、各行事の実施後の振り返りを大事にして、成果と課題を明らかにすることで、よりよい内容・方法となるよう改善を着実に重ねていきたい。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	今年度も全園児で小学校の体育会の見学に出かけ、小学生の頑張る姿を見て、小学生への憧れや小学校への期待を膨らませることができた。また、小学校の通級指導教室や特別支援学級を親子で見学させていただく機会を設けたことで、該当の園児と保護者の方は、不安を和らげたり見通しを持ったりすることができ、有効であった。今年度は小学校から２名の先生が２日ずつ幼稚園に研修に来られ、園児と一緒にふれ合うことで、幼稚園教育について体験を通して理解していただけたことは、有意義であった。	3	3	小学校と幼稚園が隣接しているという絶好の立地条件を生かして、今後も幼・小の連携を密に図っていきたい。特に、来年度は、「幼小連携・接続推進実践研究事業」の2年目となり、幼稚園の年長時と小学校１年時の合計2年間の接続期のカリキュラムの策定に本格的に取り組んでいくことになるので、小学校と共通理解を図りながらしっかりと準備を進めていきたい。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	今年度はブラジルの保護者と日本の保護者とが、もっと親しくなっていただけるように、４月のPTA総会の折に簡単なゲームをして交流を深める試みを行い、よい雰囲気をつくることができた。また、今年度も保護者には竹取や餅つき、花壇の苗植え、夏休みの奉仕作業等に参加して、園の運営を助けていただいた。また、地域のお祭りで作品を展示したり、歌の発表をしたりして、地域の皆さんに元気を届けることができた。未就園児教室（ふれあいの日）も月に一回のペースで定期的に開催し、参加者の皆さんに喜んでもらうことができた。	4	4	普段から幼稚園を支えていただいている保護者や地域の皆さんに、少しでも恩返しができるよう、今後もできるだけ楽しく役立つ親子行事や地域行事への参加に努め、地域の幼稚園としての役割を果たしていきたい。また、未就園児教室の開催についても、引き続き地道な活動を継続し、地域への子育て支援の役割を果たすとともに、中部幼稚園のPRの場となるよい機会として捉え、入園児の増加につなげていきたい。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	園内で研究保育を実施し、各担任が互いの保育を公開し合い、子供たちが自尊感情を高め、周りの人とのよりよい関わりを深めていくよう、環境構成と教師の援助の在り方について研究を深めることができた。また、今年度は職員研修でポルトガル語について皆で学びぶ機会を設け、共通理解を図るよう努めた。なかなか一朝一夕にはマスターすることは難しいが、皆で取りかかりの一歩を踏み出すことができたことは有意義であった。	3	3	ポルトガル語やブラジルについての職員研修は今後も継続して行い、自信をもって子どもたちに関わっていけるよう、全職員で取り組んでいきたい。また、園内での定期的な研修会だけでなく、外部講師を招いての研修会や外部に出かけての研修等も積極的に行い、互いに情報交換し合って技量を磨き、組織としても力を向上させていくよう努めていきたい。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	１６名の職員が足りないところを補い合い、互いの強みを生かしあいながら、「チーム中部幼稚園」として日々協力し合って園務を進めるように努めてきた。また，保育を進めていく上での困りごとや悩み等を一人で抱え込むことがないように、普段のさりげない会話や、園長と各職員との定期的な面談等の機会を活用して情報を収集し、課題を共有して常に組織として対応していくよう心がけた。	4	4	園務分掌については、得手を生かして不得手を補い合えるよう適材適所を心掛け、組織としてパワーアップしていけるようにしていきたい。また、年々多様化・複雑化する課題に対して、組織として的確・迅速に対応していくことができるよう、普段から職員間の円滑なコミュニケーションを心掛けることで信頼関係を築いていきたい。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	今年度も、予定したとおり火災や地震に対する避難訓練や警察の方による交通安全教室、声掛け事案に対する防犯教室、緊急時の園児の保護者への引き渡し訓練等を実施することができた。また、コロナやインフルエンザ、ノロウィルスなどの感染症に対しても、うがい・手洗い、消毒等の予防策を徹底し、蔓延を防ぐことができた。防犯カメラを市から新たに３台設置してもらい、防犯への備えをより充実させることができた。	4	4	来年度も引き続き、避難訓練や交通安全教室、不審者対応防犯教室、保護者への園児の引き渡し訓練など繰り返し行い、「自分の命は自分で守る」という基本的な心構えが着実に身につくよう指導を継続・徹底していきたい。また、コロナやインフルエンザ、ノロウイルスなどの感染症対策も怠ることなく、うがい，手洗い，換気などの基本的な予防対策に徹底して取り組んでいきたい。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	職員による毎月の園舎・園庭の安全点検や、市の巡回による施設・遊具の点検、消防による消火施設・設備の点検等を通して、危険な点を早期に見つけ改善していくよう努めた。具体的には、年少クラスのサッシ窓の不透明化（不審者対策）と天窓へのブラインド設置（熱中症対策）、テラス上の腐食部分への補修部品設置、テラスの亀裂部分の補修、入口門扉の補修等を行い、適時保育環境を改善することができた。また、今年度中に、北側の銀杏の木の園側に突き出た枝を伐採し、安全に遊べるようにする予定である。腐食の激しい遊具「ゆらゆら橋」の撤去については、現在市に依頼中である。	4	4	幼稚園は子どもたちの命を預かる場であるという認識のもと、子どもたちの安全を最優先と捉え、安全・安心で過ごしやすい施設・設備となるよう引き続き保守管理に努めていきたい。また、毎月の施設・設備の安全点検を徹底すると共に、保育幼稚園課や教育施設課と情報を共有して、危険性・緊急性の高いものから順次修繕に取り組んでいきたい。園庭の除草や剪定作業等も引き続きこまめに行い、環境美化にも尽力していきたい。

※評価基準　４：十分達成している　３：概ね達成している　２：改善を要する部分がある　１：大いに改善を要する